

# 全肢連情報

## ZENSHIREN BULLETIN

皆様からのニュースのご提供を  
心からお待ちしております。

□編集・発行

一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会

〒171-0021

東京都豊島区西池袋4丁目3番12号

□Publisher ZENSHIREN

TEL: 03-3971-0666

FAX: 03-3982-2913

E-mail: web-info@zenshiren.or.jp

全肢連情報はホームページ「響(ひびき)」でもご覧になれます。URL: <http://www.zenshiren.or.jp>

SNSで障害児・者、肢体不自由児・者の情報交換を *Facebook* <https://www.facebook.com/ZENSHIREN>

## 第51回全国大会 北海道函館市で開催される

平成30年度全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会（第31回全道肢体不自由児者福祉大会 函館大会）が、平成30年9月29日(土)～30日(日)に函館市函館アリーナにて開催された。

大会当日は『住み慣れた地域で、共生社会の実現！～安心・安全に誰もが豊かに生きる未来を目指して～』をテーマに、大勢のスタッフ、ボランティアに支えられ、全国より500名を超える参加者（資料参加者を含む）が集い、海外来賓として韓国脳性麻痺福祉会の会長をはじめ関係者4名も出席した。

大会は10時30分より受付が開始され、11時30分よりアトラクションのピアノ演奏、よさこいチームの音舞が披露された。12時30分より開会。物故者への黙祷が捧げられ、全肢連歌「太陽と共に」を参加者全員で斉唱した。

式典は北海道函館養護学校教諭 地引昌栄氏の総合司会の進行により、全肢連 石橋吉章副会長の開会宣言で始まり、大会実行委員長 北海道肢連協 橋本康治副会長の挨拶、全肢連 清水誠一会長による主催者挨拶が行なわれた。引き続き、北海道 高橋はるみ知事による大会名誉会長挨拶、函館市 工藤壽樹市長による開催地歓迎挨拶が行われ、厚生労働大臣、文部科学大臣からの祝辞披露、日本肢体不自由児協会 田中健次理事長、韓国脳性麻痺福祉会 崔京子会長からそれぞれ祝辞が述べられた。併せて臨席のご来賓の紹介、祝電が披露され、函館市肢体不自由児者父母の会 北山英樹副会長の閉会の挨拶をもって開会式典は終了した。

開会式典の後、厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 障害福祉課長 源河真規子氏、文部科学省 初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 菅野和彦氏による中央情勢報告が行われた。

14時50分からは分科会提言に代えての寸劇が行われた。出演者は全て会員の母親。今まさに私たちが直面している「医療的ケア児の通学対応」「卒後の生活」「所得保障・住宅保証」「福祉サービスの在り方」地域医療」これらを日常会話の中から分かりやすく取り上げ、それぞれの悩みをユーモアと笑いにかえ、会場内は和やかな空気につつまれた。

寸劇の後、休憩をはさみ午後3時50分より、福祉Ⅰ、福祉Ⅱ、教育の3テーマで分科会が個々に行われた。

#### 第1分科会 福祉Ⅰ「地域で安心・安全に生活するために」

- ①所得保障(障害者基礎年金の見直し)
- ②就労の場の確保と日中活動の充実(職場へのヘルパー派遣や日中活動支援)
- ③グループホームの充実(医療的ケア児対象)
- ④成年後見制度の未来

4つのテーマについて討議が行われた。障害基礎年金と生活保護費の差について、制度上の課題にすることなく国民的な議論の必要性、学校等の教育における課題から障害者を雇用する地域や企業の意識変革について等、それぞれに抱えている課題について、親や障害者本人も制度への理解を深め、学び合い訴え続けることが必要であること等が話し合われた。

#### 第2分科会 福祉Ⅱ「地域医療・福祉充実のために」

- ①医療的ケアの現状と課題(二次障害とりハビリ)
- ②福祉サービスの充実(報酬単価の現状)

災害時・停電時に機器の電源確保をどうするか。そのために今できることはなにか。また、ショートステイを行う事業所の不足等、医療と福祉サービス2つのテーマをもとに討議された。

#### 第3分科会 教育「安心して学校生活を送るために」

- ①医療的ケア児の教育環境整備(付添等保護者不担の現状・軽減)
- ②卒業後支援の課題(医療的ケア児の受入れ、看護師配置の事業所がない)
- ③進路指導の充実(一般就労に向けた介護職員の配置)

医療的ケアの必要な児童生徒の通学や校外学習等には、保護者の付添いが必要とされている現実。しかし学校(地域)によっては看護師が配置され校外学習にも同行でき、スクールバスでも看護師が同乗して医療的ケアの必要な児童生徒が乗車できる取り組みを行っている等、地域によって様々なケースがあることが説明された。

また、「本人部会」も行なわれ、コーディネーターに北海道教育大学附属特別支援学校教諭を迎え、自分たちの日常生活、学校、就労について先輩からの助言、後輩からの質問・相談について活発な意見交換が行われた。

同日18時30分より花びしホテル「芙蓉の間」にて情報交換会が行われた。情報交換会には約250名が参加し、北海道コカ・コーラボトリング(株)広報・CSR推進部 取締役川村雅彦氏の乾杯で開宴した。

アトラクションではマグロの解体ショーが行われ、板前の華麗な包丁さばきに会場からは歓喜の声があがった。会員の方によるマジックショーも行われ、プロ顔負けのマジックで観客を魅了した。

その後、恒例となっているコカ・コーラ社提供による折りたたみ自転車やノベルティグッズが当たる抽選会が行われた。

最後に函館名物イカ踊りが披露され、参加者も踊りに参加したりと会場内はお祭りムードとなり楽しいひと時を過ごすことができた。

翌30日は9時30分より分科会の報告が行われた。10時からは札幌市子ども発達支援総合センター 診療担当部長 松山敏勝氏による記念講演「運動障がいに伴う二次障がいの予防と対策～乳幼児期から成人期を通じて～」①身体の仕組みと運動の関わり②障がいに伴う運動器の変化のメカニズム③二次障がいのいろいろ④運動障がいへの治療戦略と予防、を中心に講演が行われた。

11時10分より閉会セレモニーが行われ、函館市肢体不自由児者父母の会 徳成隆雄副会長によって前文と7項目にわたる大会決議文が朗読され、異議なく採択された。

引き続き、全肢連 清水晟一会長から大会決議文を厚生労働省 社会援護局障害福祉部 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 障害児支援専門官 鈴木久也氏、文部科学省 初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 菅野和彦氏に手交された。

北海道肢連協 橋本康治副会長より開催地謝礼が述べられ、次期全国大会開催地の福島県肢連 七宮弘会長より挨拶が述べられた。

今大会は全肢連 植松潤治副会長による大会終了宣言により幕を閉じた。

なお、来年度の第52回全国大会並びに第39回東北ブロック大会は、2019年月14日(土)～15日(日)に福島県郡山市「ホテル華の湯」にて開催される。



## 大会決議文

ピョンチャン冬季パラリンピック大会における日本選手が目覚ましい活躍は、私たちの心に勇気と感動を与えてくれました。2020年に開催される東京パラリンピック大会へも期待がふくらみます。しかし、本年の全国的な台風や水害等による被害、9月6日早朝の地震による北海道全域の停電など今後、災害はどの地域で起こっても不思議でない時代になりました。併せて、障がい者に対する差別や虐待のニュースは依然みられます。肢体不自由児者を取り巻く環境は少しずつ改善されておりますが、まだまだ十分とは言えません。

「第65回手足の不自由な子どもを育てる運動」の一環として実施している「作品コンクール」で入賞した中学生の作文には「障がいがあるかないかに関わらず、人の命の価値や重みは誰も変わらない」と思いが綴られています。どんなに重い障がいがあっても一人の人間として誇りを持って生きていける社会の実現こそが緊要の課題であります。

現行の「障害基礎年金」では、住み慣れた地域で障がい者が自立した生活をするのは困難です。また、障がい者が生き生きと生活する上で働く場の拡充、重度の障がいのある人が利用できるグループホームの拡大は必要です。

さらに、医療的ケア児に対する学校と地域の連携は益々重要であり、成人に見られる二次障害に対するリハビリへの継続された環境づくりや認識も重要です。障がいのある人が一人で生活できる方策、多発する「災害への対応」にも十分留意する必要があります。このような中で、「住み慣れた地域で、共生社会の実現」をテーマに、「寸劇」を基に、意見交換の場を持ちました。

私たちは、国が掲げている国民全てが安全に暮らせる充実した福祉社会の実現という崇高な理念を目指すためには、地域理解を進めていかなければなりません。

ここに「第51回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会、第31回全道肢体不自由児者福祉大会（函館大会）」の名において次の事項を決議します。

- 障がいのある人の人権が守られ、住み慣れた地域で自立した生活の実現
- 障害基礎年金の増額並びに自立できる生活環境の充実
- 特別支援教育における医療的ケア児の教育環境の充実
- 障がいに応じた就労の場の拡充（職場にもヘルパー派遣の制度化）
- 医療的ケアの必要な人や重複障がいのある人のグループホームの拡大
- 医療的ケアの必要な人や重複障がいのある人のショートステイの場の確保
- 障がいのある人の災害時の支援対策、福祉避難所及び障害者にも対応できる仮設住宅の充実

平成30年9月30日

第51回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会  
第31回全道肢体不自由児者福祉大会（函館大会）

## 第3回理事会を開催

平成30年度第3回理事会が、9月29日北海道函館市函館アリーナ1階「多目的会議室A」において行われた。

会議では、第51回全国大会(北海道)運営について、代表理事の選任について等、4議案について審議され、全議案について承認・可決された。以下、概要を報告する。

### 第1号 第51回全国大会(北海道)運営についての件

石橋副会長より関係資料に基づき運営状況の進捗が報告された。大会参加規模は、来賓(行政、団体、企業等)55名、県外及び都道府県肢連申込者、県内関係者及び一般参加者、ボランティア等を合わせ314名に及びこと、また資料参加者が138名、合計534名の参加となることが報告された。来賓者については、行政、関係団体、日本コカ・コーラをはじめとする企業から34名が出席する旨が報告された。

また、情報交換会については参加者が296名であること、アトラクションとしてマグロの解体ショー、マジック笑、函館名物イカ踊り、コカ・コーラ社主催の抽選会が行われることなどが報告された。

また、連絡事項として開会式典には理事全員が登壇することが説明された。

本議案については異議なくこれを承認した。

### 第2号 代表理事の選任についての件

議長よりより定款に基づき代表理事選任について2名が必要であるということで上野事務局長に代わり石橋副会長が候補としてあげられた。

業務執行理事については石橋副会長に代わり河井理事が候補としてあげられた。

理事の補充については定款で9名以上となっているため今回増やす予定はないと報告された。

代表理事は清水会長、石橋副会長、業務執行理事は植松副会長、河井理事とすることとなった。

本議案については異議なくこれを承認した。

### 第3号 第52回全国大会(福島)開催についての件

議長より関係資料に基づき第52回全国大会(福島大会)の開催期日は2019年9月14日(土)～15日(日)に福島県郡山市「ホテル華の湯」で開催することが報告された。なお、大会主旨及び大会テーマは本年10月～12月に提示予定であることが報告された。

今後の大会については2020年9月19日(土)～20日(日)に宮崎県にて開催されることが報告された。また、2021年は東京都、2022年は愛知県で開催することも併せて報告された。

本議案は異議なくこれを承認した。

### 第4号 31年度補助事業申請の件

石橋副会長より関係資料に基づき平成31年度補助事業申請について、公益財団法人JK A並びに国庫補助事業に対する補助事業申請の計画案が報告された。JK A補助事業としては「指導誌の発行」「療育訓練事業」「地域セミナー」の3本を申請し、療育ハンドブックのテーマは「肢体不自由児者への合理的配慮とは～制度はどのように変わってきている

か～」、セミナーについては「肢体不自由児者への合理的配慮とは～災害時の住まい」とし、避難所、医療機関、市民の理解を得るための講演やハザードマップ等を使った避難経路シミュレーションについて行うことが説明された。なお補助金の決定通知は来年度になることから、申請手続き等については事務局に一任することとされた。

本議案については全員異議なくこれを承認した。

#### 第5号 その他の議案について

議長より下記項目について報告が行われた。

##### 1.アステラス製薬送迎車輛寄贈先報告

普通車2件、軽自動車3件の決定先の報告がされた。

##### 2.内閣府障害者政策委員会(事例)について

内閣府が『障害者差別解消法の合理的配慮の提供等事例集』に関しての事例を追加する改定作業をおこなうにあたり情報提供依頼を受け、理事及び常任委員からよせられた事例の回答を内閣府に提出した旨の報告がされた。

##### 3.その他

①平成30年度第3回理事会開催日程について2月22日(金)としたい旨が説明された。提案通り了承された。

②埼玉県の退会については

首都圏に近い会をなくすべきではないとの意見から保留扱いの提案が了承された。

③九州ブロックからの要望(国への予算要望とセミナー参加者のモチベーションをあげる方法等)について討議した。

ア. 国への予算要望事項は、県単位で、ブロックは集約でよい

イ. JKA事業は、テーマ及び取り組みにについて今後、検討すると報告された。

本議案については各項目とも全員異議なくこれを承認した。

## 災害義援金 受領のご報告

このたびは、災害義援金を賜りありがとうございました。

皆様方のあたたかいご支援に心より御礼申し上げます。

※ご送金いただきました御名義で掲載しています。

平成30年10月11日 奈良県肢体不自由児者父母の会連合会様 ¥28,382-

平成30年10月15日現在 ¥1,281,120-

## 地域生活支援拠点等の整備に関する実態調査【好事例集】

厚生労働省では、障害児者の重度化、高齢化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための機能（相談、緊急時の受け入れ・対応、体験の機会・場、専門的人材の確保・養成、地域の体制づくり）を、地域の実情に応じた創意工夫により整備し、障害児者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制の構築に向けて、平成29年4月1日時点で地域生活支援拠点等を整備済の自治体等を中心に、地域生活支援拠点等を地域の実情に応じて整備し、上手く活用している自治体・障害保健福祉圏域について、その整備における工夫や活用方法等のヒアリングを実施し、好事例集としてとりまとめた。

▽厚生労働省 地域生活支援拠点の好事例集 サイト▽

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000128378.html>

## 障害者の文化芸術活動 厚労省・文化庁が初会合

今年6月に議員立法で成立した「障害者文化芸術活動推進法」に基づく基本計画作りが平成30年9月26日に始まった。厚生労働省と文化庁が共同で有識者会議の初会合を開いた。年内に2回議論し、パブリックコメントを経て来年3月に基本計画を固める。地方公共団体はそれを踏まえた計画を作ることが努力義務となっている。

同法は障害者が芸術、演劇、音楽などについて鑑賞すること、創造すること、作品を発表することを「障害者の文化芸術活動」とし、その機会を広げることで障害者の個性と能力の発揮、社会参加の促進を図るもの。

また、価値の高い作品を発掘・保存したり、そうした作品の販売を支援したりすることも国・地方公共団体の役割だとしている。

基本計画は文部科学大臣、厚労大臣が定めるもので、「障害者による文化芸術活動の推進施策の基本方針」と「政府が実施すべき施策」を盛り込む。具体的な施策にはそれぞれ目標と達成時期を定める。

同日の会議では複数の委員から「この法律により障害者の文化芸術活動が一般の文化芸術活動と分断されるのではないか」と懸念する声が上がった。「社会福祉法人がやらされる感覚でアート活動に取り組むのは良くない」との声もあった。

一方、障害者が文化芸術活動に取り組む環境を整えるための人材を育て、確保することについて、同法に期待する声が相次いだ。

会議には経済産業省、国土交通省、外務省、内閣官房の担当者も同席し、障害者の文化芸術活動に関する所管事業を紹介した。

▽文化庁 障害者による文化芸術活動の推進に関する法律について▽

[http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka\\_gyosei/shokan\\_horei/geijutsu\\_bunka/shogaisha\\_bunkageijutsu/index.html](http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/shokan_horei/geijutsu_bunka/shogaisha_bunkageijutsu/index.html)

## 第37回 グラフィックアート・コンテスト

障害の有無にかかわらず、子ども達が様々な場面でふれあうことを目指し「ふれあいの輪」を広げるキャンペーンとして始まった「グラフィックアート・コンテスト」。全肢連とコカ・コーラ社とのコラボ事業として開催されています。

平成30年度も4月～6月にかけて作品を募集した結果、特別支援学校や施設、個人の方々からたくさんのご応募をいただきました。

選考委員会による厳正な審査により、各部門の「優秀賞」「佳作」「努力賞」が下記の通り選出され、賞状並びに記念品を贈呈しました。

### <第1部 コンピューター部門>

☆優秀賞 残念ながら今回は該当作品がありませんでした。

☆佳作 石原 明日香さん 「カラフルな魚」

谷岡 貴郁さん 「幸せな食事」

☆努力賞 浜 茂美さん 「好きなさくらもち」

三浦 健太郎さん 「海のいきもの」

### <第2部 デジタル写真部門>

☆優秀賞 大津 靖治さん 「春の小川」

☆佳作 村田 朱音さん 「ツツキョロ」

野中 康平さん 「I LOVE ひよっこりはん」

花田 貴美恵さん 「縁側の親子」

☆努力賞 小林 樹さん 「車酔いCar」

岡本 健一さん 「はじめてのたけのこ掘り」

### <第3部 書道部門>

☆優秀賞 残念ながら今回は該当作品がありませんでした。

☆佳作 小野 瑞希さん 「仲良し姉妹」

田中 浩幸さん 「すもう」

三浦 健二さん 「我が道を行く」

☆努力賞 岩本 勝美さん 「夢を買い夢に酔う」

三浦 恵美子さん 「絵手紙」

堀尾 修さん 「大」



★優秀賞作品 大津 靖治さん「春の小川」★

